

## 平成30年山形県内の職場における熱中症による死傷災害の概要

平成30年の熱中症による休業4日以上死傷者数は20人（7月に6人、8月に14人）で、過去20年間で最多となり、前年（平成29年）の5人から4倍となりました。

特に猛暑日が続いた8月21日～23日の3日間に13人と多発しました。

なお、職場での熱中症による死亡災害は平成22年8月より発生していません。

### 平成30年の熱中症による災害事例(休業4日以上)

No.	発生月	業種	災害発生状況
1	7月	接客娯楽業	ホテルフロントから清掃応援のため、構内屋外を徒歩で移動、客室内に到着した直後に意識混濁となったもの。
2	7月	農・林業	林業現場で作業中、気分が悪くなり、休憩のため車内に戻ろうと坂道を降りる途中、意識朦朧となったもの。
3	7月	商業	トラックで商品配達中、体が熱く、頭痛がしてきたので通院したものの。
4	7月	製造業	工場内で溶接作業を行っていたが、休憩室で倒れているのを発見されたもの。
5	7月	清掃・と畜業	機械室内の水槽内洗浄作業を行い、水槽内から出るためタラップを昇降していたところ転落したもの
6	7月	製造業	部品の出荷作業中、体調が悪くなり、一時改善は見られたが、翌日受診し、熱中症と診断されたもの。
7	8月	建設業	擁壁工事の部材組立作業中、呼吸が荒くなり、休憩していたが、痙攣を発症したので救急車で搬送されたもの。
8	8月	教育・研究業	農業用ハウスの撤去作業中、めまい、痙攣を感じ、休憩していたが改善せず、救急搬送されたもの。
9	8月	製造業	中子造型作業中、体がだるく力が入らないため、休ませたが、治らず救急外来に受診したもの。
10	8月	製造業	鑄造工場内で作業中、冷水を飲み戻る途中、体調が悪くなったもの。
11	8月	建設業	水路工事作業中、体の異変を感じたが、作業を続け、帰社したとき手の痺れを訴え、受診したもの。
12	8月	清掃・と畜業	焼却プラントメンテナンス作業中、気分が悪くなり休憩後退社したが、自宅から病院に行き受診したもの。
13	8月	農・林業	畑で機械作業中、気分が悪くなり、手足が痙攣したもの。
14	8月	運輸交通業	宅配便の配達作業で最後の配達を終了したところ、全身がつり始め動くことが困難になったもの。
15	8月	建設業	建築工事現場でコンクリート打設作業中、気分が悪くなり、動けなくなったもの。
16	8月	建設業	建築工事現場でコンクリート圧送作業中、気分が悪くなったもの。
17	8月	建設業	河川工事作業終了後の跡片付け中、体調が悪いと申し出があり、受診させたもの。
18	8月	建設業	河川工事の鋼矢板打ち込み作業を終え、自宅に到着後、身体の異常を感じたため、受診したもの。
19	8月	建設業	建築工事現場で溶接作業中、過剰な発汗があり、休憩させたが脱力感の改善がないので受診させたもの。
20	8月	建設業	側溝整備工事の現場で作業中気分が悪くなり、休憩後帰宅させたが、帰宅後受診したもの。